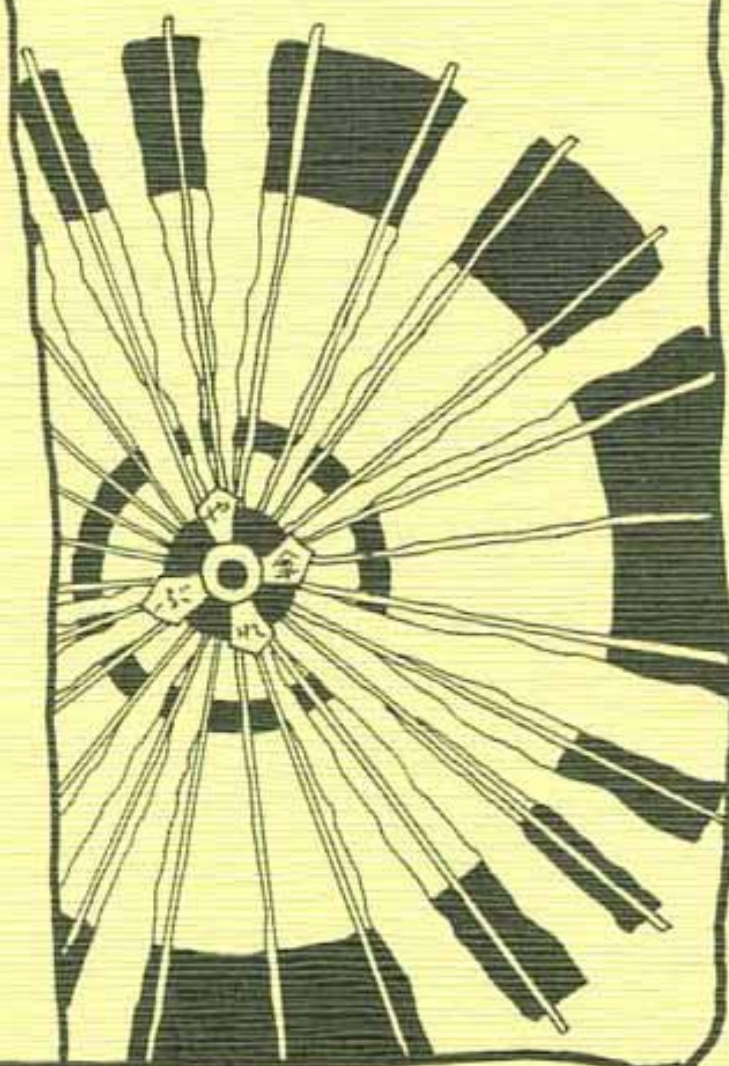


やぶれ傘



五十三号

二〇一〇年四月

春の野と野を行く人を高みより たひらかに睡くづれゐる犬ふぐり 瓦斯の火の鍋の下這ふ余寒かな 水槽の河豚に灯当たたる小料理屋 山陰となる山裾の節分草 長屋門抜けて梅咲く中庭に 紙風船折る折り方の絵図見つつ 落椿葉の奥処 <small>か</small> に陽の至る 遠浅間見えて春めく川辺かな 手作りの椅子に座布団苗木市 余目 <small>あまるめ</small> を地図に見てゐる雪の夜 子規庵に子規の句を見る冬日向 囀りや延命水はいまそこに 獅子柚子の子の頭 <small>ず</small> のほどを掌 <small>てのひら</small> に受けて 飲みはててほろほろ歩きばたん雪	大島英昭 根橋宏次 きくちきみえ 丑久保勲 渡邊孝彦 廣瀬雅男 瀬島酒望 安藤久美子 白石正躬 天野美登里 藤井美晴 國保八江 秋葉貞子 有賀昌子 松村光典
---	--

抄 集 句 選 夫 紀 傘 大 崎 ぶ れ や

明けやらぬ空に満月大旦 如月の海にサーファー点在す 洛東の手桶弁当春を盛る 豊かなる土偶のおゐど春隣 墨をする音平らかに筆初め 「行つてくる」がつひの別れに異降る カレンダーの反りのをさまる四日かな コーヒーにクリープの渦春隣 夕東風や湿り帯びたる庭の石 生かされて九十五とや年守る 人通り絶えし三日の月あかり 里人の打つ間短し除夜の鐘 寒見舞記念写真を携へて 晩年は節酒節食目刺し焼く 冷やかしを手締に加へ熊手売り	中村則夫 橋本美代 松本善一 松本正生 石原健二 岩藤礼子 奥田温子 久世孝雄 忽那みさ子 小泉幸次 齋藤朋子 齋藤 博 佐藤静子 鈴木昌子 時田義勝
--	---

魚は氷に

大崎紀夫

闘鶏の囲ひ残り霜柱
門柱の頭の雪を払ひけり
からす追ふからす風花くる空に
引く波の残すひかりや浜千鳥
シャベルもて軒の氷柱の払はるる

丸き目をして魚は氷に上がりけり

白梅や小雨の畑にもの焚かれ

紅梅に風白梅に雀かな

雪解川ゆくこゑ近く夜の湯船

置かれたる骨壺に春日差かな

釣り人の練り餌やはらか初雲雀

川沿ひを海の空へと雁帰る

紙風船

瀬島酒望

年暮るる娘の育児見守りて
しめ飾り工事現場の入口に
初春や寺の藁に寺の紋
新春や振舞ひ酒の紙コップ
八卦見の掌の絵や初大師
菩提寺や閑伽桶に積む細雪
文殊寺の裏は長葱畑かな
抜かれたる人参並ぶ畑かな
春寒や路地は鉄路に行き止まり
紙風船折る折り方の絵図見つつ

落 椿

安藤久美子

粕汁の湯気の中から独り言つ
凍つる檻ライオンの腹揺れにけり
カーテンを引けば見知らぬ雪の街
初午や稲荷神社に煙たつ
薄氷を割りて柄杓の動き出す
白梅や弓手に撫づるはせを句碑
落椿 藁の奥 処かに陽の至る
馬の背に土筆踏みゆく暫くは
みづうみを山影覆ふすみれ草
春シヨール朝湯帰りをふうはりと

遠浅間

白石正躬

鴨の陣何ともなしに間のとけて
字面追ふ夜の更けゆく寒さかな
悴める手で振る七味唐辛子
寒土用朝の井戸水掌に受けて
笹鳴きや帰りの径をゆつくりと
遠浅間見えて春めく川辺かな
川沿ひに灯の入る頃を春の雪
あたたかや雨後の畑の土返し
鴨引いて元の中州となりけり
青き踏むぼん菓子袋持ちながら

苗木市

天野美登里

公園は木洩れ日ゆるる五日かな
炭俵軒先ふかき荒物屋
湯の宿の廊下あかるき冬椿
御手洗は竹の樋より冬の寺
竜の玉石灯笼のあしもとに
鮭桶の底に飯粒春近し
手提げには夕餉のおかず寒明くる
卒業式皆勤賞に造花つき
手作りの椅子に座布団苗木市
流れにはクレソンの葉のゆるるかな

雪の夜

藤井美晴

風花や高層ビルに陽の射して
枯木道川の流るる音のあり
この道の灯まばらや風花す
風ゆるき四日の町をあるきけり
小寒の日当る猫の寢床かな
寒き夜ペテルギウスの死のことなど
余^{あまるめ}目を地図に見てゐる雪の夜
二月の日強し櫛の高枝に
枇杷の葉に二月の雨のひかるかな
水^{みさび}錆浮くよどみに落ちて藪椿

ペテルギウス＝オリオン座の主星。爆発・消滅近い。

子規庵

國保八江

いつもの鳩いつものこゑの大旦
箸置は羽子の形や雑煮膳
子規庵に子規の句を見る冬日向
子規庵の庭に括られ枯薄
海坂にうすく雲ある冬の海
大寒の川に水切りしてみたり
菩提寺の庭にバイクと水仙と
木の杭に水かげろふや猫柳
時折の風紅梅に白梅に
川沿ひは草青む道虚子旧居

延命水

秋葉貞子

寒晴れや富士立ちあがる日曜日
みぞれ雪帰りの途をたがへたる
山々の春めく尾根をすかし見る
ほほゑみし梅の一枝を供華として
やはらかき土のこぼるる若葉摘み
飛び石をひとつ跳び越え沈丁花
若き日の母と飾りし繭ひひな
光背にひしめく十指あたたかし
頭脳線短かくもよし春の宵
囀りや延命水はいまそこに

獅子柚子

有賀昌子

冬夕焼けグラスワインの色を濃く
柎の花の零れてかをりなほ
今朝の雨したたり柚子の重たげな
獅子柚子の子の頭のほどを掌に受けて
濡れ縁に猫平つたく日向ぼこ
葉牡丹を真中に花を寄せ植ゑす
鐘撞いておけら詣としたりけり
人日や米屋儀兵衛は八代目
この庭にひいふうみいよ露の臺
手にとれば一寸ほどの霜柱

ぼたん雪

松村光典

きのう会ひ今日は別れに寒椿
パソコンの壊れしを抱き師走行く
満月の空をわが家へ除夜の鐘
手のしわに隠れなきもの去年今年
パソコンのお年玉とや息子より
ひび割れの足をいたはる初稽古
雪雲の東の方に湧き起る
ぼんぽんと雪を払ひてバスに乗る
飲みはててほろほろ歩きぼたん雪
ほわほわと心浮くやうぼたん雪

夜 福 抱 福 土 皓 除
 咄 寿 く 寿 器 皓 夜
 や 草 嬰 草 に 皓 と の
 手 常 の の 染 除 鐘
 燭 の す の み 入 夜 一
 の と う 差 御 神 酒 千 代 の
 火 こ す し に 目 覚 外 は 雪
 影 に 咲 息 外 は 雪
 ゆ 咲 息 外 は 雪
 ら き 外 は 雪
 ぎ に 外 は 雪
 つ け は 雪
 つ り 雪

貫井照子

早 春 山 本 満 明 芝
 春 寒 間 陣 天 け 浜
 や や の の の や の
 波 香 棚 跡 葉 ら 三
 静 煙 田 に の ぬ 題
 か 絶 絶 を 早 白 空 嘶
 な え ぬ 覆 咲 なる 師
 る ぬ ぬ ふ き 今 満 走
 由 義 冬 梅 朝 月 大 か
 比 士 の の 香 の 旦 な
 ケ の の 霧 霜 旦 な
 浜 墓 靄 霜 旦 な

中村則夫

◇5~6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	3日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	11日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	22日(土)	AM10:00	楽 天 会	戸田市中央公民館	廣 瀬 雅 男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
6月	26日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬 島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤 井 美 晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	鎌倉・光則寺など	丑久保 勲
	23日(水)	PM6:00	三 斗 会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	26日(土)	AM10:00	楽 天 会	戸田市中央公民館	廣 瀬 雅 男
27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室	

(注) 6月20日(日)の吟行。集合は10時。JR鎌倉駅西口改札口。江ノ電への乗り換え口です。吟行地：光則寺(時間が余れば長谷観音も)。句会場：大船・玉縄別館(鎌倉生涯学習センター)。

◎ 連絡先 瀬 島 孟 ☎ 048-862-2757 藤 井 美 晴 ☎ 0422-55-2733
 大 島 英 昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣 瀬 雅 男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ